

## A-4. 「ジャガイモの収穫」 山鳩保育園(京都府八幡市) <5歳児・2月～6月>

本園では毎年、色々な植物を栽培し、子ども達に見せ、収穫したものを食べ、関心を持たせようとしてきた。しかし、世話をするのは大人で、子ども達はただ見ているだけで、一緒に育て成長を楽しむ姿がほとんど見られなかった。だから子ども達は、花壇やプランターの中の土を何の迷いもなく掘って虫探しを喜んできた。どうしたらもっと植物に関心を持ち、子ども達も積極的に植物と関われるかを考える。

そこで今年は、土を作る段階から収穫に至るまですべて子ども達と共にし、収穫を喜び、命に気付けるような実践をしていきたいと考えた。

### はじめてのジャガイモ作りに挑戦

— 1個がいっぱい増える不思議を体験 —

2月28日 **土作り**をしよう(園の生ごみを肥料として再利用する)



☆「ふわふわの土のお布団になーれ」

☆「生ごみが肥料になるの!？」



想像画  
こんな風にできたら  
いいのにな

自分の所はいつ芽が出るのか  
ワクワクし、登降園時に目を  
向ける姿が見られる

3月4日 **植え付け**をしよう

(地植え7コ・プランター4コ・米袋12コ)

→米袋には種類と自分の名前も書く



☆「プスプス穴あけおもしろいね」



☆「これが種になるの」



☆「早く芽を出して!」

3月24日 **芽が出たよ!!**

☆「みんながいっぱい見に来てくれて嬉しかったのかな」「私毎日早く出てきてってお話したよ」

「芽が一瞬懸命土の中から出ようとしているのを見ると、思わず土をどけて芽を出してあげてしまう子もいる」

5月7日 **虫が葉っぱを食べてしまう**

★「どうしたらいいのかなー?」

☆偽物をつくる ☆捕まえる ☆かくす

☆網を二重に巻く ☆袋をかぶせる

★「どうして食べてしまうの?」

☆「おいしいのかな」「きつとおなかすいたんだ」

「たくさんあるから少しくらいあげる」

芽が出たら自分以外の  
友達の所にも目を向け  
共感し合う姿が見られる



☆「こんなんかな?」

話し合った結果、虫も生きているからそのままに  
しておいてあげることにする

5月12日 花が咲いたよ



☆「紙芝居で花が咲いたらもうすぐできるってきいたよ」  
 ☆「うすむらさきと黄色がきれいだね」



「こんな大きい  
ジャガイモが  
いいのにな」

6月5日 ジャガイモ収穫



ジャガイモの根っこって  
「やきそばみたい」「ムカデ  
みたい」「パパのおひげ」  
「パーマのかみのけだ」

「茎の先が膨らんでるよ」  
「あかちゃんのもあるね」

★「どうして植えた所によって大きさが違うの？」

☆「米袋よりも地植えのほうが小さいね」



「地植えのほうは他にも色々な野菜がたくさん  
育っていて窮屈だったのかなー？」

地植え	7コ	103コ
プランター	4コ	89コ
米袋	12コ	122コ

できたジャガイモで大きさ比べ 仲間集めをしよう

「大きいから小さいジャガイモを全部  
並べるとどれ位長くなるのかな？」



「このジャガイモは小さいから赤ちゃ  
ん組のちっちくみさんかなー。これは  
大きいから僕たちのクラスだね」  
年齢(クラス)と対比

製作してみよう



観察画を描こう



親子クッキング



考察

土を作る段階から子どもたちと共にしたことによって、栽培に対する興味、目の向け方が変わってきたことを実感できた。毎朝、観察しては保育士・友達に報告してくれることによって、いろんな角度からも見ることであったのではないかなと思われる。また、植物だけでなく、虫にも命があることを学び、共に「共存している」といことも心の中に感じとってくれたのでは・・・と思われる。

ポイント

ジャガイモの栽培を土作りから始めて収穫するまで、子どもと保育者が共に汗を流し、命への気づきや収穫の喜びを体験して「科学する心を育てる」ことに取り組んでいます。視て、聴いて、触れて、いじって、匂いをかいで、感じて考える子どもに育つことを願って、日々、子どもと保育者が共に、野菜、果物の栽培に取り組んでいる様子が伺えます。